

院長 コラム

一緒に考えましょう

健康のこと
医療のこと

64

ACP (アドバンスケアプランニング)



市民病院
院長 神谷里明

令和になって1年が過ぎました。ますます少子高齢化は進んでいます。以前にも書きましたが今後日本は多死社会を迎えます。現在年間140万人の方が亡くなっていますが、2040年ごろには年間170万人の方が亡くなると推計されています。最期を迎えるまでの時間をどう生きるのか考えていますか？死は誰にでも訪れます。必ずやってくる「人生の最終段階」を迎える準備は誰もがしなければなりません。最終段階に至る道筋は様々で、自分では選べないこともあります。ただ自分で考えていても最終段階を迎えたときに思った通りにならないことも多くあります。病気を持っている人は主治医などに現在の状態、今後の経過をよく聞いて、自分の希望を伝えなければなりません。またそのときに家族などとともに考えることも必要です。自分が

判断できなくなったときに代わりに判断を行う人も一緒に話を聞いて、今後の生き方をわかってもらう必要があります。持病などが無く、元気な人も家族などと話をしておくことは必要です。

昨年よりACP (Advance Care Planning) という言葉を聞かれることが多くなったと思います。「人生会議」という日本語の名称がつけられています。本人と周りの人たち(家族・信頼できる友人など)と自分の価値観、人生の目標、今後の医療、介護等に関して情報を共有し、自分の考えを明らかにする過程のことをいいます。その中には自分が意思決定をできなくなったときに、自分に代わり決定してくれる人または人々を選定しておくことも含まれます。これは一回決めたら終わりではなく、年齢・健康状態や病態が変化することにより繰り返し行うべきものです。決めたことは記録に残し、必要になったときに提示できるようにし、本人が意思表示困難な場合はすぐ参照できるようにしておかなければなりません。健康なときに行うべきだと言われても実感がわかないと思いますが、急な体調の悪化もあり得ます。健康なときにこそ考えて、話し合いを行うべきだと思います。

自分は最期までどう生きたいのか伝えていきますか？